

1 概要

- 15日及び16日に制憲議会議員選挙が実施。155議席中48議席が独立候補、37議席が与党右派会派、28議席が野党左派会派、25議席が野党中道左派会派、17議席が先住民固定枠。与党会派が目標としていた3分の1の議席確保を下回った他、中道左派会派が左派会派の獲得議席を歴史上初めて下回り、独立候補の躍進が顕著であるため既成政党の敗北として報じられた。
- 15日及び16日、州知事・市区長・市区議会議員選挙が実施。全国で中道左派会派候補及び左派会派系候補の勝利・優勢が目立ち、政府与党にとり大きな痛手に。注目されていたサンティアゴ首都圏州知事選は野党候補2名が決選投票へ進み、与党候補は4位という結果になった。
- 23日及び24日、アラマン外相はラッソ・エクアドル大統領の就任式に出席するため同国を訪問。式典のマーチンにてエクアドル、グアテマラ及びボリビアの外相とバイ会談を実施した他、米国の国連大使とも意見交換を実施。
- 28日、保健省はカンシノ社ワクチン30万回分(初回分)がチリに到着した旨のプレスリリースを发出。6月1日より一部の自治体で同社ワクチン接種が開始。

2 内政

(1)新型コロナウイルス

- ア 7日、ISP(チリ公衆衛生研究所)は、昨年12月24日から本年3月10日にかけて当地で実施されたシノバック社及びファイザー社ワクチン接種における副反応に関する最新報告書(5月4日付)を発表。同期間に合計577万172回のワクチンが接種され、約0.09%に相当する5,410件の副反応が確認。その内、166件において重症副反応が確認(「シ」社が122件、「フ」社が43件)。ワクチン接種10万回あたりの重症副反応報告件数は「フ」社が10.2件、「シ」社が2.3件。
- イ 15日、保健省は当国における新型コロナウイルスの変異株の感染状況に係る最新の報告書を発表。昨年12月22日から本年5月10日までに1,369件の変異株ウイルス感染症例が報告。世界保健機関(WHO)が指定する「懸念すべき変異株(VOC)」については、伯型(P1)が391件、英国型(B.1.1.7)が203件、南アフリカ型(B.1.351)が2件(市中感染例なし)報告。VOCの市中感染例合計431件の内、36件(伯型が31件、英国型が5件)でICU入院が報告。また英国型感染者2名、伯型感染者28名の死亡がこれまでに確認。なお、印型変異株(B.1.617)は現在まで未報告。加えて、チリ及びペルーを中心に確認されている変異株(C.37)が増加傾向にあり、報道によると専門家が注意喚起している。
- ウ 23日、ピネラ大統領はワクチン接種者に対する移動許可証を付与する計画を発表。ワクチン接種プロセスを完了した市民は「段階的規制緩和計画(Plan Paso a Paso)」が規定する「第1段階(義務的自宅待機)」及び「第2段階(移行期)」の対象自治体においても自由に移動出来るようになる他、各自治体における活動の規制を尊重した上で「第2段階」以上の自治体間であれば州を跨ぐ移動も可能となる(注:6月3日に規則の一部が変更)。
- エ 28日、保健省はカンシノ社ワクチン30万回分(初回分)がチリに到着した旨のプレスリリースを發

出。6月1日より一部の自治体で同社ワクチン接種が開始。

オ 29日、政府は官報にて5月31日まで実施予定であった現行の国境閉鎖措置を6月15日まで延長する旨発表(注:6月7日、保健省が同措置を6月30日までの延長を発表)。

カ 29日、保健省は、現下の新型コロナウイルス感染再拡大の中で報告されている新規感染者の大半がワクチン未接種者(約80%が2回のワクチン接種から14日以上が経過していない人)であると述べた他、シノバック社ワクチンの有効性について強調。

(2)7月18日大統領選予備選へ向けた動向

ア 2日、マテイ・プロビデンシア区長(与党「独立民主連合党(UDI)」)が大統領予備選への出馬を表明したものの、18日に出馬を辞退した。同日、UDI 中央委員会はラビン・ラス・コンデス区長を正式にUDIの大統領候補者として指名。

イ 20日、選挙管理委員会(Servel)は7月18日の大統領選予備選挙について与党会派の「国民革新党(RN)」、「独立民主同盟党(UDI)」、「政治発展党(Evopoli)」及び「地域独立民主党(PRI)」の4党が会派「Chile Vamos」を構成し、同会派内で予備選実施する旨登録した他、「拡大前線(FA)」を構成する「社会収斂党(CS)」、「共通の党(Comunes)」、「地方主義緑の社会連合(FRVS)」、「民主革命党(RD)」4党に「共産党(PC)」を加えた合計5党が左派会派「Apruebo Dignidad」を構成し、同会派内で予備選実施する旨登録したと発表。

(3)制憲議会議員選挙(15日及び16日)結果概要

ア 155議席中48議席(31%)が独立候補、37議席(23.9%)が与党右派会派、28議席(18.1%)が野党左派会派、25議席(16.1%)が野党中道左派会派、17議席(11%)が先住民固定枠。

イ 与党会派が目標としていた3分の1の議席確保を大幅に下回る結果となった他、中道左派会派の獲得議席が左派会派の獲得議席を歴史上初めて下回り、独立候補の躍進が顕著であることから政権不信や既成政党・政治の敗北として捉えられている。

(4)州知事・市区長・市区議会議員選挙(15日及び16日)結果概要

ア 全国レベルで中道左派会派候補及び左派会派系候補の勝利・優勢が目立ち、政府与党にとり大きな痛手に。

イ 注目されていたサンティアゴ首都圏州知事選はオレゴ候補(野党「キリスト教民主党(DC)」)及びオリバ候補(野党「拡大前線(FA)」)を構成する「共通の党(Comunes)」が決選投票へ進み、与党系候補は4位という結果に終わる。

ウ 市区長選においては与党がプロビデンシアやラス・コンデスといった地盤の厚い選挙区では勝利するも、左派系の「民主革命党(RD)」及び「チリ共産党(PC)」候補が躍進し、長年治めてきていたサンティアゴ区やビニャデルマル市などで敗北。

エ 州知事選については、第一回投票で決着がつかなかった全国16州の内、13州においては6月13日に決選投票が実施予定。

(5)世論調査

ア 「Criteria」

(ア)5月のピニエラ大統領の支持率:14%、政府支持率は15%。

(イ)次期大統領候補の選好率:ハドウエ候補(野党「共産党(PC)」)が16%、ラビン候補(与党「独立民主同盟党(UDI)」)が14%、プロボステ候補(野党「キリスト教民主党(DC)」)が9%、シチエル候補(与党会派所属なるも政党無所属)が8%。

イ「Pulso Ciudadano」

(ア)ピニエラ大統領支持率の推移:9.8%(月前半)→12.6%(月後半)。

(イ)内閣支持率の推移:12.3%(月前半)→13.5%(月後半)。

(ウ)次期大統領候補の選好率の推移:

ラビン候補(与党「独立民主同盟党(UDI)」)14.8%→12.9%。

ハドウエ候補(野党「共産党(PC)」)13.3%→13.9%。

ヒレス候補(野党「人道党(PH)」)10.2%→6.2%。

プロボステ候補(野党「キリスト教民主党(DC)」)が6.6%(月後半)。

ウ「Cadem」

(ア)ピニエラ大統領支持率の推移:15%(第1週)→16%(第2週)→13%(第3週)→17%(第4週)。

(イ)次期大統領候補の選好率:ハドウエ候補(野党「共産党(PC)」):17%、ラビン候補(与党「独立民主同盟党(UDI)」):17%、プロボステ上院議長(野党「キリスト教民主党(DC)」):11%、ヒレス下院議員(野党「人道党(PH)」):10%(第4週)。

3 外交

(1)対ボリビア関係

7日、チリ外務省は現在国交が断絶状態にあるボリビアとチリの二国間関係の正常化に向けたイニシアチブにつき、両国が第23回政策対話会合(同会合は2010年以降は未実施)、第15回国境・統合委員会会合及び二国間の共通の関心事項を協議するための作業部会及び技術会合の再開につき合意した旨のプレスリリースを発売。

(2)エルサレムの状況に対する声明

11日、チリ外務省はエルサレムの状況に対し一般市民を無差別に標的とするこれら全ての行動は正当化できるものでなく、深刻な人権侵害であり国際社会からの完全な否定に値するものとして深い懸念を表明するプレスリリースを発売

(3)コロンビア情勢に係る声明

6日、チリ外務省は4月28日に始まったドゥケコロンビア大統領による増税発表を契機とするコロンビアの抗議活動において死者や負傷者が出たことにつき深い遺憾の意を表するプレスリリースを発売。

(4)アラマン外相のエクアドル訪問

23日及び24日、アラマン外相はラッソ・エクアドル大統領の就任式に出席するために同国を訪問。マージンにてエクアドル、グアテマラ及びボリビアの外相とバイ会談を実施した他、米国の国連大使とも意見交換を実施。モンタルボ・エクアドル外相との二国間関係及び協力強化の継続に関する意見交換にて「二国間の戦略的関係につき再確認し、貿易、投資及び協力関係強化に一致した。チリはエクアドルの太平洋同盟への完全な統合を促進していく」と述べた他、ブロー・グアテマラ外相との意見交換において二国間アジェンダを前進させるとともにポスト・パンデミック期における経済再活性化に向けた協力関係を強化していく旨一致した。